
各角恋愛模様（短編寄せ集め）

著者寝留化

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

各角恋愛模様（短編寄せ集め）

【Nコード】

N7871Z

【作者名】

著者寝留化

【あらすじ】

まあ……妄想って大切……みたいな

微妙に繋がった形で恋愛模様みたいな

好きです ラブコメ

各角恋愛模様

年下の彼氏

年下の彼氏が出来た。私に。……うん、それがどうした、おのれリア充目という話だろう。いやいや、まあまあ。聞いて欲しい。これまで私に出来た彼氏というのは、年下ではなく、同い年や年上が多かった。ファザコンの気があるのは認める。ま、それはいい。

で、だ。

ゲロを盛大に吐きながら告られるというなかなかパンキッシュでクレイジーな告られ方をし、そしてOKを出したという謎。いやまあ謎でもなんでもなくて、実際見た目は好みだし、仕事は早い。優しい。イケメン。気が利く。年下とは思えない、スマートさを兼ね備えてる、けれど、微妙に間抜け。まさか自分にシヨタ属性があった事に驚きを覚えつつ、OKした。ゲロ吐くとは思わなかったけど。スゴイネタだ、ま、それはいい。ただ一つ、問題があるとすれば

……バイト

という点だろう。私は正社員。同じ職場だ。

そう、職場の飲みに行き、その時、アドレスを交換し、デートを何故かすることになり、そしてゲロを吐きながら彼奴は告白してきたわけだ。すさまじい。おかしなヤツである。

「えーと……じゃあ寝ますか」

「寝るの！？もう！？」

見た目は草食系という感じだったのに、意外とガッツかれた。いやいや。……悪くない。まあその話はひどく個人的な話なので置いとくとして。ノロケついでに言うなら、思った以上に上手かった。まあそれもどうでもいい。

さて……

私は二十七で彼は二つ下。社会に出てしまえば、年齢というのは存外どうでもよくなるモノだ、と思う。十代は一つ違うだけで、何かがひどく素晴らしいと、何も考えずに思ってたが……大人だからと言って、大人だと限らないと学んだのはいつだったっけ？その点、

「のんこさん」

「何？」

「無茶苦茶可愛い」

うーん……さてさて。色々と悩んでいるのだ。最近。料理は旨い（多分私より）、笑顔が可愛い。微妙に抜けてる所も可愛い。これが、二つ上の余裕かしらん、と思いつつ、まあ実際収入も私以上。けれど、デートの時は向こうが多めに払う。気合い（勿論色んな意味を込めて）を入れている時は彼奴持ちが多い。

正直に言おう。

ヤバイ好きだ。

……。

それでもって、私の口はなかなか素直に動かない。これが年上の苦悩ってヤツかしらん。……なんかこう言ってしまうと負けた気がする。これまで付き合った年上の方が『可愛い』と言ってくれなかったのはそんな感じなのかしらん。なんて呟いてみたりして時間を稼ぐ。つか私はのんこじゃないっーに。……ちなみに気合い（勿論色んな意味を込めて）が入ってる時は「さん」が取れる。私が『蕩れる』。困った。困った困った困った。

正直に言っちゃおう。

怖いのだ。

……いや、そもそも彼奴が居なくなってしまうえばそれはその苦悩云々の話では済まずに、きつともっと何かが、ねばついて、巣くって、抉っている何かが……何かがなくなる。これまで付き合って、寝て、色々としてきたが、どうも厄介な事に、巣くってしまった。

追ったら逃げられる気がする。

犬っばい、此奴で彼奴に逃げられてしまっような。

抱きしめきつた瞬間、消えてしまいそうで……。

おいおい私。どうした私。美人社長を目指していた私は何処へ行っ
った？

イケメン男妾でも五、六人侍らすか、かっかっか、とやるうとしていた私は何処へ行っ
った？ええい！恋愛は無理難題を仰る！

などと真似ながら「あちよー」と奇声を発しながら焼きそばを作る。

いや、ていうかアレだ。抱きしめたら消えてしまいそうで、は、普通なら男側の台詞だろう。なんだろう？まあ確かに彼奴は微妙に

乙女な部分もあって、そう、妙に可愛いアイテムが好きで、変なマニアックな……いやいやいやいやいやいやいや私。ちよつと待て私。どうした私。いやつまり私。いやいやいやいや私。誤魔化すな私。

何を考えている？

彼奴がゲロを吐いていた瞬間、考えていたのは

『ふむ……まあしばらく遊んでも……』

だったぞ？おかしいな。いつの間に。

どうして主導権が向こうに移動している？どこで間違えた？イニシア恥部は私が握っていたのではなかったのだろうか。恥部！恥部！もうわからん！ええい！いたまれる！焼きそば！と、焼きそばに美味しくなあれの呪文をかけながら、ふしぎなおどりを踊ってしまふ。だー！と頭をかきむしろうかと思っただが自制した。

……うーむ。これは重傷だ。どうしよう？結婚するべきだろうか？

いや、待て！……難しい。

別に一緒になっただけいいんだが……仕事はどうしよう？私が家事？

……正直向いてないのよね、と。彼奴の部屋に行つた時、いやまあ、彼奴の部屋は私の部屋より狭いんだけど。何て言うの？空間の使い方とか上手くて。バイトで収入が私よりなのに、家具を上手いこと揃えてる所とか、凄いなあと思っただ。か・ら！そうじゃなくて！そうじゃないのよ！のんこ！

いやだからのんこじゃないっつーし！

彼奴の性だ！そう！彼奴の性！つまりはこれから電話をかけて仕事が終わったら、彼奴の性ということでご飯を奢らせて……奢らせて……むう……理由にしようとしてる。

なんだろう？厄介だな、私。

そうと決めた私は結構気合いを入れて（色々と上から下まで）準備にとりかかる。

決戦じゃ！勝負じゃ！

結局、今日も何一つ決まらなかった。

あー……彼奴の汗……舐め取りたいかも……

我ながら変態だとは思っ……。

……これって知られても大丈夫よね？

……うむむむ……

年上の彼女（前書き）

短編シリーズは管理しにくいのでこっちに変えちゃいました 失礼

年上の彼女

年上の彼女

そうです。僕が噂の　ではなく、そう、俺。

彼女からそっちの方が良いと言われたのでそうしてる。

正直な話、俺に主体性なんてモノは皆無で。

何もかもが他人からの借り物で、雑誌やら本やら漫画やらラノベやら高尚な教科書やら辞典、写真やら電灯、自転車、流行、そのわけのわからない抽象的でひどくふわふわしているモノをどうにか組み合わせて構成しているのが俺である。

つまり、何処にでも居る、愛すべき人間達の人である。

むふふ。出だしよりオマエ、自信ありげじゃないか。だって？

そりゃアレだよ。僕には年上の　俺には年上の彼女が居るからね。

彼女の魅力を語るに当たって、とりあえず、念頭に置いておいて欲しい事がある。

つまり、彼女は冒頭で述べたように、僕からすれば全てが原物で、全てが結晶と言っている。まあ、彼女は否定するだろうけど。しかし、少なくとも、俺が感じている事の十分の一、百分の一でも伝えたいモノだ。

僕の身体を構成している物質で、何より誇れるのは彼女だ。誇れるのが他人というのはおかしな話だ、と言うかも知れない。けれどまあ、これは迂遠な自己肯定と言っている。ナルシズムというヤツだ。僕　いや、俺はナルシーである。そのすげー彼女の隣に居るのだ。さて、自信を持つな、という方が無理な話だろう。

僕の中での最優先事項は彼女に認められる事だ、あり、彼女を構成する一つの物質になりたいという事と言える。

……
いや、噛んでないし。

つまり所、彼女が自慢であると言うことは、ひいては僕もまた自慢にならねばならぬわけで、また傷つくようではいまいちという話もある。

わけがわからない？いや、確かに。

多分、動転しているのだ。

何故か彼女に呼ばれて、部屋に行ってみると、押し倒されてすげー舐められた。

いや、ごめん、アダルトな感じではないんだ。

「なつくん……汗……」

「へ？」

れるん……

……まあ夏だし？汗かくよ、そりゃあ。

しかしのんこさん……あんたその可愛さは異常だよ！？俺にどうして欲しいわけ！？いやつか何！？なにゆえ汗！？舌！？なんか倒錯した世界に足を踏み入れそうだよ！？俺！

「むふ……」

ああ……いやいや。全く。女性ってすげえ。傷つかないとか嘘つきました。ごめんなさい。のんこさんにはのんこさんの世界があって、その世界では『汗を舐め取る』のがなんらかのキーファクター

何もかもを奪い取りたい。

強欲で、支離滅裂で、ただの性欲で ボタンをかけたがえれば
ひどい事になるくらい。

表情の変化は乏しいと本人も言うが、そんな事はない。

はつきり言って

破壊力抜群だ。

「あー……のんさん……無茶苦茶可愛いです」
「何ソレ？」

ふっと笑いながら手を振りながら言う。
少し潤んだ風な目、それに

なるほど、耳たぶ。

素晴らしいじゃないか！葉風さん！

と僕は思ったモノだ。

易々と人の心の防壁をなぎ倒す鉄球！……いや、この表現もどう
だろうな。なんかえつぢがきいて、すまーとでしゃーぶな感じが、
みたいなと同じくらいふざけてる風に聞こえるかも知れない。勿論、
背景込みの意味で。

全く。

いやまあほら、わかるんだけど。

駄目です。ホネ又キ。

とある研究員

とある研究員

そうです。私が研究員です。とある、と書いてしまうと必然的に言いたくなってしまうわけで。ついでに言ってしまうえば私が天才です。はい、そこ拍手。

その幻想をぶちこわす！

……

……はあすつきり。

さてさて、まあご存じの通り、研究員だけあり、私はどちらかと言えばエッジが利いて、シャープでクールな女です。

喜怒哀楽鉄面皮、女の皮を被った研究の鬼。おいおい。

なるほど。

皆そう思っていたのか……。

と、帰り際、忘れ物をして研究室を覗いた時に小耳に挟んだわけだ。

フルボッコにしても良かったのだけれど、流石に、高校生の時みたいに、そんな犬猫の喧嘩のような戯れをするわけにはいかなかったので、仕方なくその場は引いてやったことをありがたがれ。

と、普通に帰った。

わけもなく。

そのまま扉を開け、

「黙れ 共」

と言つてやった。そこら辺に転がるじゃがいもの扱いは得意だ。大声と一発の有効性のある打撃は他人の意志を容易く籠絡する。私はおじいちゃんからそう教わった。でも、おじいちゃん。アレは超怖かったわ。……まあ解る人には解つてしまふかも知れないが、私の研究テーマは生物関係だ。あまり具体的にその研究の有用性、方向性、内容まで明かしてしまうと、……いやほら、ひくかも知れないし。

でもまあ微妙に明かすことにしよう。

私のレポートに並ぶ単語は

生殖 勃起 中枢 海綿体 ホルモン バランス 健康状態 肉
茎 ……

中学生の辞典に引かれたマーカーのラインの生物学的見地から云々、みたいな言葉の数々だ。単

純に言えばがぼぼずぼがぼで、これもある意味でひっかかるか？

やれやれ。

お金になる研究というのは、本当に生物の原点に限りなく近い方向しかない。

何が出来て出来なくなるのだ、あまり縁のなかつた私からすれば、それは違う世界の出来事で……

……もしかして気付いてる？

そうよね。

こんな迂遠な表現をしてもバれる時はバれるわよね？

私は大学生時代の自分を羨む。

その勇氣に、向こう見ずな勇氣、無謀とも言う。

いや、

足元を見ずに飛ぶ、その勇氣。

「んなもん、どこでも出来るわ！」

まあ酔っぱらった勢いもあつたのだろうけれど。

スゴイと思う。

出来ない。

ま、結局出来てないんだけど。

もつとさらつと出来るはずだったのだけど。

ていうか言っただけかしら？

言えないし、

見れないし

何をすればいいのかわからないわ。

何を？

彼を。

実際、彼を目にし、

「あ……うう……で……」

どうした私！？となる。

私は自称だけでなく、天才だ。年収は人が羨むほどある。憎まれっ子世にはばかる。やーいやーい。天才は罵倒の仕方も天才なのだ。はばかってるかどうかはとりあえず置いて。お金はある。容姿

も……まあ悪い方ではないだろう。多分。微妙に背が高いのは悩む所だけど……。

じゃがいも共相手には。

「いやだから、その生殖行為における正当性と遺伝子の いや、何を言ってるの？だから、つまり、頑強にすればいいんじゃないやなくて

」

なんて話は簡単にできるのに。

「あ……それで……お願いしま……しゅ」

あ、噛んだ

となる。

いやいや、私。

……大丈夫か？

「じゃあアレ？上巻は処女」

「悪いか！」

いかん。遺憾。如何であるー。先日、のんことの会話がフラッシュバックした。

細胞膜が！細胞膜が暴走しそうだ！

ちなみにのんことは私の友人で、高校の時から知り合いだ。クール繋がり。

……

普通なら同類は敬遠しそうな話だが、気が合ってしまったのだから仕方がない。

ちなみにのんこにのんこと言つと怒る。

まあ気持ちは分かる。けれど、これはアレだ。親しさの表現と言
うヤツでもある。

そのワンクッションはある意味で友情。いいぞ、もっとやれ。

そう！認めよう！

いやつか認めんのか！私！？

たかがコンビニ店員の男に恋したなんて！

……いや、たかがなんて台詞はいけない。そう……まるで、ただ、
彼の見てくれに……いや違う！

思い出せ！私！

「じゃあ、上巻はどこでもって言うけど、誰とならどこでもできん
の？」

そう！それ！免罪符！ゲトー！やったな私！

いいじゃないか！

そう、見てくれ！

容姿！

ただのイケメン好きなのだ！

私は！

別に私は彼のその声とか、のど仏、ついでに耳の形、優しげな雰囲気……じゃなくて、手先とか歯並び、いや、というかキレイな遺伝子配列をしてるんじゃないかと感じる素養が……あー、もうなんだなんだなんだ！？いやつかその辺の要素にしたって、ただの容姿だからな！？私！？いやそもそもアレだ。言葉を交わした事なんてまるでないし、こっちが一方的に恋して

ぎゃーす！

待て！私！

恋　じゃあない！そう　性欲だ！性欲に違いない！

と、私は無表情に、他人の生殖の使用薬による研究結果（つまり回数。満足度。その他諸々）を打ち込み、予想される有効成分、ついで次の結果向上におけるステップに必要な媒体などをファイルに書き込む。

……我ながら、本当に、外見と内面があっていないと思う。

きつとコンビニでおやつを買ってる時もそんな感じなのだろう。

はあ……

内心の葛藤がそのまんま相手に伝われば良いのに……。

いや待て。そうすると私、彼に結局嫌われるんじゃない……

あ、流石に手が止まった。

まいて、まいて。

まき直す。ネジを締める。締め直す。

指が動き出す。

ちよつと待て。

仮にも！？仮にも私はアレだぞ！？

喜怒哀楽鉄面皮、女の皮を被った研究の鬼。おいおい。

なんだぞ？

その後に皮がどうちゃらというピンポイント爆撃をかます、ハッキリ言つて、恐ろしい女で、ガチで憎まれっ子だぞ？……いつ襲われてもおかしくない。正直内心びくついている。戦う必要なんてまるでないところで戦ってしまう。

それが……それが、たかがコンビニ店員の男に……

いやだから……

……

で、私のそれが試される時が来てしまった。

「大丈夫ですか？」

ぎゃーす！？

コンビニ店員の男

コンビニ店員の男

当年とって二一才。

特に起伏無く、普通に生きてきたらフリーターになっていた。

……いや、俺自身いかな、いかなと考えていたけれど、気付いたらこうだったのだ。

受け入れるしかない。

というわけで夢は売れる小説家。

現実にはコンビニ店員であり、友人はデザイナーでかちゃかちゃやっている。

年上の彼女が居るらしい。

リア充め。

羨ましい。

と思う。けれどまあ、アレだ。リア充め、と思えると言うことは俺自身、リア充らしい。

本当に、リアルがどうしようもない人間にそんな台詞は言えない。

まあ普通、四つ上を友人と言うのかどうかは意見が別れる所だろうけど、そいつと俺は友人だ。

ちなみに小説家も別に正確に言えば夢というわけじゃない。

バイトだけで毎日が擦り切れていくのに耐え難いから書いてるだけ、と言うのが正しい。一種のストレス解消。だから、ゲームで面白いモノが出れば一も二もなく飛びつく。飽きたら文字を書き込む。繰り返し、繰り返し。

とは言え、お金になれば嬉しいなあ、と思っ
ていないわけじゃない。

お金。

そう、俺が愛してやまないのはお金と言える。

お金があれば、家は買えるし、学校にだ
って行ける。学生諸君、その幸運をあ
ますところなく享受したまえ、なん
て俺が言っるのはおかしいけれど、
実際、今更そうとも思っ

大卒と高卒で、出来る仕事の入り口
がまるで変わる。

大卒であるかないかだけで、入り口
は容易に姿を変える。

なるほど、知識。

合コン。

やり方。

コネ。

すげーな、大卒。

これは嫌味だ。

そして僻みで、

羨望だ。

まあ大卒であれば、少しは、感じなくてもいい劣等感から解放されるかも知れない。

まあお金が好き、なんてのは、誰でもそうなので、大した特徴でもない。

お金に嫌われてるなんて事は、誰でも経験している事だろう。

俺より余程、困窮している人も居るに違いない。

同情しよう。

けれど、お金は俺にくれ。

そう、俺は優しくない。

お金があれば優しくなれる。

こういう心持ちがいかんのだ。やかん。いかん。

いや、つーか、ぼくと言った方がいいか。俺、という語り口だとまるで、なんだか、妙に大人びてしまう。ぼくは子供だ。二十一だ
けど。

……いや、ぼくも不味いな。必要以上に幼く感じる。

僕でいいや。

被るけど。

あ、被らねえや。

彼奴、最近、微妙に混じるけど、俺になったんだっとな。

これは丁度良い。

コンビニの深夜バイトは割に入る。普通に食べ物屋で働くより良い。何より、ゆるい。ハッキリ言って、毎日、社会性とか、そう言った大事な要素をボロボロとこぼれ落としている気がするけど、…
…これがずっと続けられるならこれを続けてればいいのだが。

きつと、そうではないだろう。

店長はすごいいい人だ。

普通、サービス業の上は性格が悪いと相場が決まってる。

そうでなければならぬし、そうであらなくてはならないのだから。と言ったヤツも居るが、全てが全てそうじゃないという感覚は正直嬉しい。

だからと言って、あの人がずっと此処に居るとも思えない。所詮店長も雇われで、俺はバイトだ。

何かあればすぐに首を切られるし、きつとずっと此処に居るなんて不可能だろう。

多分、数字を弄っているヤツからすれば、それはどうでもいいことだろう。

優しさや、心遣いなんてモノは数字に反映されてやしない。明確な基準を持たない不確実性の

あつそ、だ。

売れば勝ち。

売れなければ負け。

だから今日も僕は某かを書く。

……昼過ぎからいつも通りにシフトに入る。眠い。とは言え、僕は『こんな』性格をしているが、見た目はござっぱりだ。そう、なんか僻みとか恨み辛みとかうつつくして鬱屈したもやもやの類はやや注意深く見ないと見えない。

店長は一目で見抜いてたけど。

全然注意深くねえよ。まんまかよ。と突っ込みを入れた方。

まあそうかも知れない。

いやほら、うちの店長、本能に頼ってるっばいし。

……本能に頼ってるって表現も何かが間違ってる気がするけど。

「悪くない」

その後に発した一言には、変な感触が残った。

ま、それはいい。若いつて言うのは、どうでもいいことまでうじうじ考えるのだから。

と、どっかの小説か漫画で読んだはずだ。着ぶくれ異質。体質。速攻ザ・ヤングメン。

とりあえず、先輩と交替する。

しばらく経つと、お客が来た。

お姉さんである。

僕が勝手にそう呼んでる。

知的美人と言う言葉がまさに正しく。

顎に手を当て、お菓子を選別する様はなんとも言えない。

まさにクール。美人。

クール・オブ・クールとでも言おうか。

いや、見た目からすると、そうは見えないのだが、僕の曇った両目からすれば、アレはきつとすげー悩んでる。

あ、……出たんだ。新作。結構好きだったのよね、これ。でも……そうね。この小腹の感じだと量的にはきつとこっちのスタンダードなクッキーの方が……ちょっと待て私！違う！甘い！そこはそうと見せ掛け……ってこれは流石に入らないか。好きだけど、ちょっと量があるのよね、このストロベリー……むう……あ、でもこっちのキャンディとかでも良いかも。悪くない、悪くないよ！キャンディ！……なんと！？何！？キャラメル！？どうしてそっちに食指が動いたの！？私！ はっ！？……く、クランチだとう……！？

ま、こんな感じ。

なんとなく。なんとなくそう思う。

さらにさらに。

……

……ま、それはいい。

レジで会計をする時はそれまでの颯爽とした態度が一変。なんだか異様に可愛らしくなる。……まあ買ってる物はお菓子類を除くとまむしドリンクとかそんな健康促進系のえげつないのだけど。ギャップ萌え……いや、颯爽とした感じからすると……駄目だ。わからん。

とりあえず可愛いのは解る。

時間帯はいつもの暇な時間帯。

……しかし何か……なんだろう。違和感？

ふらふら。

ふらら。

ふららんらん。

……なんだか異常にふらふらしている。

あ、倒れた。

ありや痛いな……いやつか、飲み物のケースに頭ごと行かなかつたか？

……大丈夫かな。

と、僕は彼女を抱き起こす。

「大丈夫ですか？」

とある研究員の話 2

とある研究員 2

あー、つまり、私が倒れたのは、そう、いやいや、認めるのか？
私？

認めちゃえよ、認めるべきだ、そう、認めるんだ
！

……別に狙って倒れたわけではないけれど、

彼が居る時間帯で良かった。……むふ。

むふ……はないな。ないぞ、私。

いや、そう。状況の説明だった。

前日譚だ。

思った以上に好感触のデータが得られ、レポートが進み、気付いたら朝だった……。

いや、終わってるとか言うな。

確かに化粧が……なんでもない。

まあそんなにガツチガチに決めてるわけじゃないので、そんなに私は化粧が大変な方じゃない。……いや、好きですよ？めっちゃめっちゃ。自分がキレイになるのが嫌いなんて人はどうかと思うくらい。まあ好きだからと言って、振り向いて貰えるかどうかはまた別の問題で。燃料止まりなんて話はよくあるわけで。

女性誌の雑誌の化粧頁はハッキリ言って、楽しい。
悦楽しみ。みたいな。

まあ合う、合わないは置いて。休みの日は、パジャマのままゴロゴロしつつ、化粧頁をふんふん言いながら見るのは、私の最高級の娯楽と言える。

墮落。

墮落サイコー！

私がガンダムです！

イエス！ガンダム！

……失礼。

まあとにかく、研究員なんてモノは、マニアックな世界であり、オタクと紙一重だ。勿論、数式を誰かと共有することにも楽しみを覚えるし、実証実験、結果は常に気になっている。それが全て、と言つのは、女の私からすれば、やはり男の意見だろうと思う。

つまり、化粧を嗜むのは……

いや失礼。ちょっとホツペタとか熱くって。暴走中なんです。私。

アオオオオオオオ　　ん。

月に吠えてみた。

じゃあなくて。

「ちょっと、お姉さん」

「……うひ」

「お姉さん！？うひってなんです！？うひって！？」

うーむ。我ながら、舌が回らない。……ていうか、うひって非道いな。ふるへっへんどし。じごすばあああああああああああああああ
ああああああああく！……

よし、大丈夫だ！私！

「ちょーだいじよぶ」

「どう考えても大丈夫な人はそんな棒読みはしませんよね！？」

まあ主に君が理由だし。

……

……っ！？

言っただった！言っただったぞ！私！

妄想で……。

はあ。

ぴとっ……

……ぴとっ？

「熱、ありますね」

ビニ使えない。

いやでも……いやだから……いやでも……だからそう……いやでも……

「らいじょうぶねふ！」

「お姉さん!？」

……

後日談をしよう。

……え？唐突過ぎる？いやいやだって……ねえ。恥ずかし過ぎるでしょ。その後も大体似たようなモノだし。え？仕事？いや勿論、完璧。最高です。理論に実践に……

……

ふむ。

ぐふふうふふふふふふふ。

……。

まあアレ。アレよ。コンビニが使い続けられるかどうかはその事務室に連れていかれ、挙げ句、彼が今日は余裕があるからという理由で、私を家まで送る事になり、……つまり、勝負をかけるのは今しかないと気合いを入れなおして（ちなみに私は早速部下にメールしたのは秘密だ。体調悪い……で通じる辺り、うちの秘書は完璧である）、はあはあしながら……いやそこはオフレコにしよう。そう、コンビニが使えるかどうかという理由があり、もういっそ駄目になるなら今しか駄目よ！上巻総帥！と自分を讃えながら突貫。面くらった彼を説き伏せ、挙げ句、押し倒し（いや、流石に最後までは……）『OK』の返事を奪い取ったという……

うわ

アアアアアア！？

スっゴイアクロバティック！？

ものすっごいことしたな！？私！？

というわけで雇いました。

「……」

家で家政婦してるのが彼です。

「えーと」

「まっきー」

「……いやそれ、名字じゃね？」

「まっきー」

「いやどう聞いても油性マジックじゃね？」

「まっきー」

「えーと」

コンビニ店員の男 2

コンビニ店員の男 2

えーと。ここから？何？僕、すげー中途半端なところから語らせれんの？いやいや。ちょっと待って。流石に待って。なんか恥ずかしい青春の主張した後だから、ちょっと無理というか、ちょっとなると言っか……。

いやほら、僕、ダメンスだし っていだああああああああああああああああああ！？

上巻さん！？

っ！？ぎゃーす！

つねらないでっ！

……そう、まっきーこと梢さん。上巻って結構良いと思うんだけどな。語呂が良くて。

卑下するな？……はいはい。わかりました、わかりましたよ。うす。超好きっすよ、梢。……よし、ダウン。しばらく復帰して来ないだろうな、アレなら。

ていうかイエスイエス枕なんてのがあったのに、正直、僕は驚いた。……良く探してきたな……でも、この人なら手縫いか……？

……枕に顔を埋めながらゴロゴロしてる所はかなり可愛い。

まあそんな僕のロリチックな趣味と特殊性癖の話は置いて。
いやつか梢さん……

ゴロゴロし過ぎでしょ。

どんだけ楽しくなっちゃってんの？

普段すげー無口なのに。

そう、梢ことまつきーは、どちらかと言えば無口だ。

多分、内心ではスゴイ、それはもうものごっつい速度で言葉が波のように羅列並列直列ベルトコンベアーのように転がされてるのだからうけど（傍目で見ている限り、彼女のパソコンの打ち方は機関銃）、演算処理が速過ぎるのか、口がその速度についていけないのか……

「ふみゆ……」

いや、ふみゆはないだろう。と、当初僕はよく思った。変な人だ。アレで僕より年上で、……いくつ上だっけ？ まあいいや。六つか五つだな、確か。実際、仕事モードの時は、顔つきが違う。言葉もなめらかで、生殖行為における、快樂の……と言った言葉だつてすらすら出てくる。イエスイエス枕なんてモノを買ってきた行動力もスゴイ。

でもまあ……

「……」
「……」

果たしてそれが何の言葉の形を為していたのかわからないくらい
の「ごちゆ」……。流石に僕に赤ちゃんプレイを要求する下地はない。ま、時間が解決してくれるでしょう、とのんこさんからは言わ

れたが。そういうあんたは最近ますますお熱ですか？と尋ねたら、ホッペタを引つ張られた。いひゃいひゃれす！のんふおしゃん！と言ったら、余計に引つ張れた。

……もう二一なのに。

のんこさんと喋る時の速度……というか、僕に対するノロケは正直……嬉しいが、僕はそれほど褒められるのになれてない。

心底嫌なヤツだ……おっと。

卑屈禁止。

だからまあ顔を真つ赤っかにさせられたので許してください。照れたんです。

……ていうかこれこそ完全なノロケだな。需要あんのか？これ？

あ、そもそも、どうやって付き合うことになったかの話だったわけ？

えっと……確か、まあ彼女の家に送っていったわけだ。

……まあ、お世辞にも片付いてるとは言えない惨状だったのはまあよくある話として。

「ええと……」

「上巻梢」

「……んう？」

「まつきー」

「……」

んん？

と思っただが、とりあえず、彼女をソファに降ろそうと（おんぶして帰って来たのだ）する……降りない。……えいっ……降りない。身体を振ろうかと思っただが……

「ぶぐぐぐぐぐ」

背後で踏ん張る音。……なんだろう、この人。
見た目とのギャップが激しすぎる。

と、一瞬の隙を突き(どんな隙だ)おんぶから僕の前面へスライ
ド。どんな動きだっ!?

思ったら彼女は移動し、

……お姫様抱っこ。

……。

いや、待て。

おんぶからお姫様抱っこへ移行するっですげー難しくね？

「むっふっふ、私の頭脳を持ってすれば容易いわ」

……そして勝ち誇る。

まあそんな経緯があって、だなあ。

端折り過ぎ?……いや、確かにそうだね。うん、そう。

いや、そんな女性に遭ったのは初めてだったからさ。そう、会っ
たんじゃなくて遭った、ね。遭おうと思って遭えるもんじゃないし、
これを逃したらそこまでも知れないからさ。そう、遭ったのは初
めて。間近で出会ったのは初めて。

一も二もなくそこで告白したわけだ。

「結婚を前提に僕と付き合ってください!」

やれやれ。

……いや、我ながら阿保だと思っよ？

男性誌でよくある『ありえない告白トップテン』とかに羅列されておかしくない話だもん。前提も、経験も、相手の性格も、おかまいなしに、言ってしまうえば単純に見た目やら行動で判断したわけだからさ。『でさー、タカシのやつがさー』『ぎやはははは、彼奴は馬鹿だねー』なんてギャルが（死語かな？）言って笑い話にしかない告白方法だろう。

でもまあ、何よりの予想外は

「喜んで」

親指をぐいっと立てるサムズアップ。

サムズアップだぜ？

ポニーテールでクールなお姉さんがお姫様抱っこされながらサムズアップ。

というわけで僕は

つて上巻さん！？

いや、デート行ってくって言っても、ほら、僕は今ちょっとちよつと！？ええ！？

顔真っ赤ですよ！？

大丈夫ですか！？

爆発！？　ぐえつ……

梢さん！絞まってる！首絞まってるから！

引きずらないでえ！

バーのマスター

バーのマスター

……何？彼氏が浮気してる？

彼奴が？……あの抜けてなんか微妙にほえっとしてるヤツが？

いや、ないでしょ。

え？そうじゃない？ほえっとしてない？きりっとしてる？うん……
ノロケはよそでやってくれると助かるんだけど。聞いてないね、
聞いてない。

……ふーん。まあ、アヤシイと言えばアヤシいわね、確かに。どっちともとれるわね。でも知ってる？でも、アニメやら漫画やら小説だと、まあ勿論、モノによるんだけど、そういうのは大抵勘違いで、ぼわーっと暴走して、挙げ句抜き差ししちゃって……いや違ったんだ、というのが山梨落ちナシの……え？私の趣味の話はいいから？

こりゃ失礼。

でもまあ、あんたがそうやって悩むなんて珍しいわね。

どちらかと言えば、あんたが振り回す側だったじゃない。え？今度は違う？振り回されてばかり？……いやあ……部外者の私からはなんとも。

え？仕事しろ？こちとら客だぞ？……そうきたか。

ええ、お客様が振り回されてばかりですね。

……心がこもってない？

まあそうかも。

でもまあ、振り回すのも振り回されるのもいいじゃない。何もないよりマシよ。

取り返しの付かない何かを起こしたら事だけども。

でも浮気……ねえ。

あのぼわんとした彼が？

ん？……ぼわっとしてない？むしろ、クールできりっ……うん、わかった。

帰れ。

こっちはバーのマスターなんてやって出逢いなんてねえんだよ！
じじいと二人でひたすら切り盛りしてるわけ！……ってやつかまし
いわ！じじい！……ま、立ち飲み屋に近い形態だから仕方ないとは思
うけど。そ、イギリスのバースタイル。ぱくりもパクリ、もろパ
クリ。逆輸入の裏ビデオなみ。……え？洒落てる？……ま、まあ、
その……

って……

わっかりやすっ！

おいこらじい！何気分良くお酒振る舞ってんだ！？

いやいやいやいやいや、おい、こら。そして飲むな！それ、銀座で出したら、一杯七千円はつくのに！何、陽気に振る舞って踊ってるんだ！じい！私だって喜びたかったのに！ずるい！ツンデレタイム！ツンデレタイムを実演させて！

……はあ

まあいいわ。でも多分、アヤシイと言えば、アヤシイけど、勘違いよ。保証する。

え？

なんで私が保証するのって？むしろ、私が彼奴の恋人？

いやいやないない　ってこわっ！？何！？いきなり何でビール瓶を装備！？少なくともヒノキの棒より怖いわよね！？

……浮気しろよ？格好いいじゃない？心が揺れ動くでしょ？

……帰れ。

マジで帰れ。

バカカップルは爆発しろ。

私がバカカップルになるのは許すけど、その他大勢のバカカップルは爆発しろ。

でもまあ、心が揺れ動くかどうかは別として、此処でしばらく飲んでれば解るわよ。

え？……なんでソレがわかるのって？

ふふん。

お姉さんは何でもお見通しのモノよ。

……いやまあ大学生の恋愛だし。

え？馬鹿にするな？

まあ確かにね。馬鹿にするべきじゃあ、ないわね。恋愛は恋愛。小学生の恋愛だって、本当は馬鹿にしちゃいけない。

けど、ねえ？

ほら、ドッキリってあるでしょ？

そう、ドッキリ。

さてさて、今は何月でしょう？

……うん。違うね、違う。

誰も春のアニメの終了は嘆いてない。
いや、確かにね。確かに寂しいけどね。

特に私は。

……

でも、いいんだ。今年は二次創作の当たり年だから……あ、その話はいいですか。さいですか。

残念。

そう、ドッキリ。急に戻したわね。

いや、ほら、ドッキリって、答が分かってるから楽しめるわけでしょう？

そうそう、私が犯人です……ってなんで！？そしてビール瓶が増えた！？

二刀流！？ごめん！ぜんっぜん格好良くない！けど身の危険はびしばし感じるわ！？

ていうか酔っぱらってる？……珍しい。

で、答は？

……え？解らない？……嘘でしょ？

いやいや、あるじゃない。ほら。そう、それ！

……いやごめん。誰もDVD BOXの話はしてないな、うん。いや、確かに私はね、そりゃもうたまりませんよ。色々と汁が飛び散ってますがな。でもね、違う。うん、違う。薄い本の祭りはこれから。え？似合わない？……うるっさいわね。好きなの。好きなんだから仕方ないでしょ。

やかましいわ！じじい！あんたも年考えてガハラさんに萌えるのはやめなさい！

……失礼。

え？ありえないほど、オタク？……ははは、何を今更。ま、あのじじいはにわかだけどね。

……それで良く洒落たバーが勤まるね？……いや、まあ、そんなもんじゃない？実際、なんだかんだ言って、皆アニメとか好きよ。漫画然り。分かり易い〓人気が出るってのは、あながち間違いじゃないでしょ？

ま、その話をさらけ出すかどうかはその人次第だけど。私はその点、エロゲ、BL、音楽、英語、アニメ、ゲーム、小説、……ま、なんでもござれの雑食食いだからね。

背景の無駄さが違うのよ、無駄さが！がっはっはっは！

え？勝ち誇る所じゃない？

……出逢いがないのが残念。

さてさて。そろそろかな？

ん？何がつて？

……ちよつと。いやまあ、確かに抜けてる所あるわよね、と思つ
ところは結構あつたけど、真面目に忘れてるの？

ま、いいわ。

せいぜい、鼻血でも出して床に這い付くばりなさい。

……

十分後

……恋に盲目つて……すげえのね。
軽く羨ましいわ。

年下の彼女

年下の彼女

デートにおける必須条件の一つにあげられる「まず生き残る事」ですが、父さん。

どうも、それを守れそうにありません。

先日の話になるのですが、

「ねえ」

「ん？」

「好きな髪型ってある？」

と、彼女に尋ねられました。ええ、年下です。彼女は……えーと……五つ下ですかね。多分。まあ……ロリってますね、正直。ジャケット着せて、シャツを着てネクタイをすると、もう完璧女子校生。そうそう、そっち。……警察の方の視線が怖い感じになります。

何をいきなり漫画やアニメみたいな台詞をあにはからやん、さては俺の本棚を探られた！？みたいな事を考えて、悩んだのは一瞬。

「ポニーテール……かな」

呟いてしまったわけです。ふあぼれ！ええ、そうです。齡三十も間近というのに俺は相変わらずこんなんです。……いやあ……大人……ねえ。

「そう」

しかし……まあ、俺より年下の彼女ですが、まあ、父さんならわかるでしょう。そう、俺より余程大人です。女の子ってすげー。いや、女性ってすげー、ですね。みたいな。まあ社会人になってしまえばこんなもんでしょうけど。

「あ、ボルドーでカベルネの……そうですね、重い方をお願いします。分かり易い方が好みです」

ソムリエの扱いも慣れたもんです。

とりあえずビール、か、もしくは、梅酒ロック！がせいぜいの俺からすれば青息吐息、さすれば心は五里霧中。ごりごりマッスル。君に首っただけ。

目を丸くしたのは一度や二度じゃあないですね。

ついで、

「かたぐるまー」

……だいぶキャラクターが崩れてる感じがしますが、そこがギャツプ萌えです。軽く酔うとこんな感じですよ。ガチで酔うと吐きます。その辺も含めて可愛い彼女ですよ。

東京の雑踏の中、肩車をしながら歩いたのも一度や二度じゃないですよ。すみません。父さんが母さんを肩車するのはどうかな、と思ってきましたが……

いやいや、悪くないですね。確かに。

世界の中心がまるで此処だと言ってる気がします。

まあそんな露出癖と注目癖は置いといて。

特にドラマチックな出逢いではなかった二人ですが、まあその事件が起こるまでは普通のカップルをしていました。まあ、肩車を普通のカップルがするのかと言えば、確かに疑問を挟む余地はあると思いますが、一度やると癖になることは請け負いましょう。後は女性側のテンションです。ついでに言えば、この間、公園でお姫様抱っこをしながらグルグル廻ってるカップルを見ました。今度実行してみます。じゃあなくて。

そう、事件が起こったのです。

先日の突然の髪型の話題。

元々、彼女は、黒髪で、長かったのですが、拘りがあるらしく（その辺もぐらつと来た理由です。自分を作り上げてる女性は惚れます）、一貫したスタイルでこれまでは来ていました。せいぜいが、まあ、軽くカチューシャ（！）だったり、花を横に添えてみたり（！）、耳を出したり（！）、前髪をぐいっとあげたり（！）だったのですが……

え？

ちよろい？

いやまあ、なんです？いちいち報告するな？

いやあ……って父さん！？切らないで！電話切らないで！

相談なんです！大事な！

……仕事が忙しいのはわかりますが、一応息子なんで愛情溢れる対応を……

あー、ごめんなさい！切らないで！

え？ガハラさんのふいぎゅあを鑑賞しなきゃいけないから？

……

ま、まあそれはいいです。

いや、聞きたくないです。

いや、大丈夫です。間に合ってます。

何が間に合ってるのか言っておいて謎ですが。

つまり！

だから話を戻しますが！

彼女がこの間「ポニーテール」でデートに来たんですよ！

いいですか！？ポニーテールですよ！？ポニー！

フルメタルパニックの犯罪者はオマエか？

……いやいやまさか。彼の気持ちはわかりますが。

おかげで、顔が一日中真っ赤っかですよ。

似合いすぎました。鼻血が止まらなくて。つまり、ある意味で黄金比で、彼女のポニーテールはそれこそ、神秘の領域、神のみぞ知る絶対領域、まあ、普段のワンレンも、それはもう素敵で素敵で素敵の三乗くらいで……聞いてますか？父さん？……あれ……いやだからもう一度言いますよ？つまり

……「あれ？じじい、兄さんからの電話は？え？……ああ……また病気が……」

年上の彼氏

年上の彼氏

え？相談？私に？

……だからのんごじゃないっつーに。

……まあ、いいわ。この台詞使っていると、怒られそうだし。

ええ、私のがのんごさんです。

ふむ。年上の彼氏が出来て、しばらく経つと。

攻略法？……いや、そんなんあるのかな？

髪型でも変えてみたら？

……彼氏がまる一日鼻の穴にティッシュを詰めていた？

……大概ね。

え？

魅力が通じてるかわからない？

いや、多分、すげー通じてると思うわよ。

これ以上ないっくらい。

分かり易くついていいじゃない。私の彼氏なんて「好き」を言ってくれるのは嬉しいけど、マシンガンだからね。惚れられ過ぎるってのもなかなか恐ろしいモノよ。

……え？弛んでる？……

……恐ろしいモノよ。いつからこうなった……？

はい！はいはい！私のホッペタの話はいいから！
で？その彼氏の写真とかないの？

お、プリクラ。……うん、すげーラブラブね。今度、彼奴にこう
いうプリクラを撮らせるように言っておこう。

え？何？

果たして、結婚出来るんでしょうか？

いや、出来るんじゃない？

話を聞いている限り、ポニーテールでストレートに、

「結婚しましょう」

と言えば、うん、と頷くと思うけど。

絶対アレでしょ。髪型とか、顔周辺にワンポイント入れると、彼、
気付くでしょ？

なんで解るの？って？

ほら、男って服より、顔好きだから。服装が目立つのは暗めの場所ね。トータルより、意外と一点豪華主義、大艦巨砲主義って言う時代錯誤も甚だしいかしら？

化粧とかはわからないけど、そういう分かり易い部分だと良く気付くのよ。

ていうか、単純にその彼があんたの事を超見てるからだと思っけどね。

……あんた、男の視線とか鈍そつだもんね。

……え？……いや、ほら、ねえ？一応、私、女性誌のデザイナーだし……。

いや、褒めるな！照れるでしょうが！

でも、アレね。どうして、彼と付き合うことになったの？ていうかどういふ出逢い？

ふむふむ。

つまり、普通こつこついわけだ。

……どんな出逢いよ！？

ないわよ！？いや、私と彼奴も大概だけど！

普通ですよー、あははは。

じゃねえよ！？

真面目に！？いやいや！いやいやいやいや！？
この人こんな見た目なのに！？

そこがいい……ねえ。

確かに。

ギヤップって大事よね。

へえ……。

軽く憧れるわ。

……彼奴も鍛えておくべきかしら。

ていうか、あんたにそんな趣味があったという驚きが先に来たけどね。

え？……普通か。

まあそうね。確かに。

ところで、彼氏の名前聞いていい？

……もしかして、なんだけど。そう、ホントにもしかしてなんだ
けど。

バーのマスターやってる妹居たりする？

……世間で狭いのね。

彼の友人

彼の友人

あれ？珍しい。うちは飲み屋じゃないですよ。

……いや、怒らないでください。というか、悩み事ですか？

……へえ……てつきり、ざつくばらんに、なんて表現久しぶりに使いましたが、気にせずストレートにやる人だと思ってましたけど、案外悩むんですね。

いや、知りませんよ。

え？……いや悩むまでもないですよ、そういうことは。考えすぎはよく無いですって。つか、十分ラブラブですよ、ラブラブ。

……にやけないで下さい。

にやけてない？……はい、鏡。

いやいや、何を驚いてるんです？それが今の貴女の顔ですよ。でれんでれん。

私は由緒正しきツンデレだ？……大丈夫デスか？貴女、最近、ただのでれでれですよ。

いや、無理してツンを気取ろうとしても無駄ですから。ま、日常

生活が充実してれば仕事も気合いが入るし、周囲も元気になるんですよ、マジで。

そう言えばこないだ、彼奴が来てましたね、うちに。なんか悩んでみたいで。

……いや、なんですか？その『ま、まあ、別に興味があるわけじゃないけど、聞いても良いかな？』って。リアルツンデレは。ま、別に口止めされてないんで明かしちゃいますけれど、どうも『結婚』について悩んでみたいですな。

いやあ……悩んでいますね。何かあったんですか？……ほう、ほう。と。

……

いや、嫁は貴女じゃないですか。

『私の嫁になれ！』

どんな告白ですか。……ま、先手を打たれたら、確かにペースを乱すでしょうね、彼奴。何の話を呟いてるんだ？いや、………なんでしようね。俺自身よくわかりませんよ。さて、此処で一押しするべきか、種明かしするべきか。性格が悪いんで、一押ししときましょ

う。そうです、そうです。

彼奴、指輪を前に悩んでましたよ。

……え？

指輪を買った？……あー……この質問は『あえて』させて貰うんですが。姐さん、……プロポーズって知ってますよね？……いやそりゃ俺だって、経験者じゃないんで、正確な所は知りませんけどね。普通、此処で言う『一般常識』って、あくまで俺の幻想で、イメージなので細かく突き詰められると、なんでもないんですが、俺の一般常識によれば、やはりプロポーズは男側からの『誓い』とか『制約』だと思っんですけど？

うん、それは知ってる。

ならいいですね。

え、……違う？

うんうん。

つまり姐さんはこういうワケですね。

『嫁が家に嫁ぐのが普通なら、旦那を家に縛り付ける場合、それはもう、女からのプロポーズ。絶対幸せにしてやるからと言っべき』

と。

うーん……見事に一般常識を反転させましたね。

……男らしい。いや、漢ですね、最早。

漢らしさが一周回って最早可愛らしいの世界に突入してますよ。

どこの電磁砲ですか、貴女。

ああ、大丈夫。貴女に通じなくても、解る人には解ります。

まあ、彼奴はネット主体のデザイナーだから可能でしょうけど。
共働き。

……後日談がある？いや、というか、彼奴が来てたの一日です
からね。

じゃあその話は三日前ですか。……随分タイムリーな話ですね。
ふむふむ。そのまま、区役所に赴き、そのまま結婚の手続きをその
場で……いや、既に結婚してたんですね。その事実には驚きです。も
とい、どん引き。そう言えば……いや、なんでもないです。

じゃあ、彼奴が悩んでたのはなんだったんでしょうね？

……メール？ああ、彼奴から。

……満面の笑みですね。

ああ、はいはい。お腹いっぱいです。いってらっしゃい。

翠日

……いや、そのリヤブリヤブ度はすでに殺意を抱くレベルですね、マジで。

つかいちいち報告に来るなあ！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7871z/>

各角恋愛模様（短編寄せ集め）

2012年1月2日09時47分発行